

(仮称) 笠懸西小学校建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の結果について

令和元年10月から実施した新設小学校建設予定地における埋蔵文化財の発掘調査が終了しました。このほど調査概要がまとまりましたので報告いたします。

1 調査の経過

- (1) 平成30年8月、笠懸小学校の分離新設のための建設予定地が決定。令和元年10月、計画地の一部を試掘調査を行ったところ、平安時代の住居等が見つかり、計画地内に遺跡があることが判明した。
- (2) 令和2年2月の追加の試掘で、遺跡の範囲がさらに広がることが判明した。
- (3) 試掘調査の結果に基づき、校舎等の建設に伴い埋蔵文化財の消滅が避けられない場所について記録保存のための発掘調査を実施した。

2 調査概要

- (1) 遺跡の名称 : 天神遺跡 (てんじんいせき)
- (2) 調査期間と調査面積 : 令和2年8月20日～令和2年12月7日 (6,870 m²)
- (3) 調査結果 : ①縄文時代 : 落とし穴 : 14か所
②奈良・平安時代 : 竪穴住居跡 : 22か所、掘立柱建物跡 : 1か所
井戸 : 2か所、土坑 : 39か所

3 調査所見

(1) 縄文時代

- ・ 14か所の落とし穴は、遺跡の北に広がる現在「大田んぼ」と呼ばれる湿地帯に集まったイノシシなどを獲るためのものと考えられる。

(2) 奈良・平安時代

- ・ 天神遺跡では、土師器や須恵器など日用品のほか、住居跡のカマドの補強材に獣脚の鋳型や瓦、製鉄炉の炉材を用いるものが多く見つかった。これらは上野国分寺の建立に関係する。
- ・ 出土した日用品から、多くの住居跡は9世紀頃以降に建てられ、国分寺の建立と時間差がある。国分寺建立に関係する遺物は見つかったものの、鍛冶など作業が行われた場所が見つからなかったことから、周辺の生産遺跡から持ち込まれたものと考えられる。
- ・ 古代末に遺跡周辺は「鹿田郷」に編成された。調査の結果から、天神遺跡は、「大田んぼ」を拓き、鹿田郷の原型をつくった人々の集落跡と考えられる。
- ・ 特筆される遺物としては、獣脚の鋳型が数点、古代の地名(「山田」・「廣山」)を記した文字瓦が数点出土している。

4 今後の取り扱いについて

発掘調査の結果、みどり市の古代のようすがわかる重要な資料が見つかった。資料の整理を経て、岩宿博物館での展示や、学校教育、さらには地域住民の皆様にも地元の歴史を楽しんでいただけるよう、活用を図りたい。

5 遺構、遺物等の写真



縄文時代の落とし穴



重なり合って見つかった平安時代の竪穴住居跡



2軒並んで見つかった平安時代の竪穴住居跡



平安時代の掘立柱式建物(竪穴住居跡に対して平地式の建物跡)



道路ぎわで見つかった平安時代の住居跡



瓶子の出土状態



重なって見つかった平安時代の日常使いの食器



住居跡の貯蔵穴から見つかった文字の刻印された上野国分寺の創建期の瓦(「広山」と書かれている)



竪穴住居跡のカマドの補強材に使われた上野国分寺の創建期の瓦



古代の郡名「山田」が記された瓦



竪穴住居跡のカマドの補強材に使われた金属製品の
鋳型



金属製品の鋳型